オーストラリアにおける子どものための弁護士制度

2007年8月10日・11日の2日間、オーストラリア弁護士連合会（ローカンサル）家族法部会と国家法律援助機関（ナショナル・リーガル・エイド）の共催による「子どものための弁護士」（Independent Children’s Lawyers: ICL）のための研修プログラムに参加しました。これは、オーストラリア家族法に基づき、ICLに任命されるオーストラリアの弁護士のための研修プログラムです。私は、以前から、オーストラリアにおける子どもの代理入制度に関心があったことから、今回の中研修に特別に参加させてもらいました。

オーストラリアのICL制度の思想的背景は、国連の子どもの権利条約、特に、子どもの意見表明権と子どもの最善の利益の原則があると説明されています。オーストラリア家族法が採っている両親の子どもに対する共同責任（離婚後も共同監護が原則）という考え方の下で、子どもがどちらの親とどこに住むか、他方の親との関係をとるのかといった両親の別居や離婚に伴う子どもの監護をめぐる裁判において、裁判所によって選任される子どもの代理人は、両親の意見とは別に子ども自身の意見を裁判所に伝える役割を果たします。と言っても、ICLは、子どもの意見の代弁者としてではなく、「子どもの最善の利益」に基づき行動することが求められます。

今般、オーストラリアでは、以前からあるこの制度が、2006年家族法改正により、新たに「子どものための弁護士」（ICL）として法律上その役割が明記されました。そして、ICLに選任されるためには研修を受けすることが義務付けられたため、2007年に全国で2回研修が実施されたものです。

研修の実際

参加者には、研修の題材となる事件の事実経過や陳述書、専門家の意見書や関連法規等を収めたファイルと様々な論文を集めたファイルが送付され、事前学習を求められます。研修では、法律援助機関にスタッフとして勤務する弁護士や法律事務所で働く弁護士約50人が参加していました。

研修は、①専門家（子どもの代理人の経験が豊富な弁護士、裁判所職員、子ども保護ユニットで働いている児童心理学者等）による報告、②約10人ずつのグループに分か